

日本リハビリテーション工学協会誌
リハビリテーション・エンジニアリング
誌上における災害対策委員会活動関連記事一覧
(活動助成報告を含む)

Vol31.2 2016 年 5 月 1 日発行

Vol31.3 2016 年 8 月 1 日発行

Vol31.4 2016 年 11 月 1 日発行

Vol31.1 2017 年 2 月 1 日発行

Vol32.2 2017 年 5 月 1 日発行

May. 2016
Vol. 31
No. 2

特集

Festina Lente! ゆっくり急げ
—急性期にしかできない支援—

お知らせ

特 集

特集にあたって	佐藤 遼太郎	37
急性期リハビリテーションの今	出江 紳一	38
急性期からの情報共有	倉澤 奈津子	42
脊髄損傷者における早期からのピアカウンセリング	島本 義信	44
脳卒中患者に対する早期からの装具療法	安部 陽子	46
下腿切断後早期からの義足製作 —スウェーデンのポストオペプログラム—	橋本 寛	50
下肢切断と義足の医療連携における課題	梅澤 慎吾	52
急性期における環境の課題と改革 —車椅子の病棟配置を通して—	笠原 和美・及川 雅博	55

報 告

第30回リハビリテーション工学カンファレンス in おきなわ	金城 知子	59
第43回日本リハビリテーション工学協会 車いす SIG 講習会 in 大東	北井 亜弥	61
第36回障害者歩くスキーの集い	張詩爽	62
ATACカンファレンス	濱口 君代	63
2020年、渋谷。超福祉の日常を体験しよう 展	今井 大樹	64
第31回日本義肢装具学会学術大会に参加して	間山 歩美	65



会員の皆様へ

4月14日の深夜と16日の未明に熊本県から大分県にかけて起きた大地震によって被災された会員の皆様に心よりお見舞い申し上げます。1995年の阪神淡路大震災、そしてまだ記憶に新しい2011年の東日本大震災に続き、今回の地震で熊本県を中心として甚大な被害が発生し、被災された多くの住民に緊急な支援が必要となっています。当協会では被災地の近くにお住まいの理事や会員から、できるだけ詳しい現地の情報を収集し、関連諸団体とも情報共有をはかりながら、協会としてどのような支援活動ができるか理事全員で検討を続けています。

今後の予定として5月7日と8日に福島市で第4回東日本大震災復興支援リハビリテーション工学講習会を開催する予定ですが、東北地方への支援活動を継続しながら、熊本県から大分県の被災地に対しても協会として支援活動を開始したいと考えています。まだ余震も多く、ご心配なことも多いと存じますが、会員の皆様からの具体的な情報提供や当協会への要請がありましたら遠慮なくご連絡くださいますよう、お願い申し上げます。

末尾になりましたが、今回の地震で被災した地域の一刻も早い復興を心から願っています。

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会 会長
繁成 剛

August. 2016
Vol. 31
No. 3

特集

話してすっきりしよう！

—相談の中から発見される人間関係 技術 ぴったりの解決策—

お知らせ

特 集

話してすっきりしよう！

—相談の中から発見される人間関係 技術 ぴったりの解決策—	木澤 健司	67
「わたしの願い」	森 琴音	68
子どもたちの心を知るために	竹谷 志保子	70
教材を用いた特別支援学校での児童とのコミュニケーション	小岩 真弓	74
常に付きまとう“前例なし”の壁	油田 あゆみ	78
ピア・カウンセリングの有効性	丸田 君枝	82
障がいがあっても輝ける		
—自分の気持ちに正直に、諦めない気持ちを大切にすること—	和泉 優貴	86

資 料

『障がいがある人の防災』

—体の不自由な人と家族の東日本大震災の報告—	菊地 泰平	90
------------------------	-------	----

連 載

車椅子の歴史 第三回

南北朝以前の中国における車輪付き椅子	桂 律也	95
--------------------	------	----

報 告

障害者自立支援機器「シーズ・ニーズマッチング交流会 2015」(東京開催)	桑田 哲人	99
第3回福祉住環境サミット	熊木 由美子	100
台湾リハビリテーション工学協会の学術大会に参加して	繁成 剛	101
第15回子どもの福祉用具展 —キッズフェスタ 2016—	武藤 晶	103
展示会見学：キッズフェスタ 2016 は子どものモーターショー	古林 紀哉	104



平成 28 年熊本地震への本協会支援事業概要

【災害対策委員会の設置】

平成 28 年熊本大地震を受け、「当協会では被災地の近くにお住まいの理事や会員から、できるだけ詳しい現地の情報を収集し、関連諸団体とも情報共有をはかりながら、協会としてどのような支援活動ができるか理事全員で検討を続けて当協会として被災された多くの住民への支援をはかるべく、現地の情報を収集し、関連諸団体とも情報共有をはかりながら、協会としてどのような支援活動ができるか理事全員で検討を続けて」まいりました（31-2 号より引用）。

当協会会員は、震災発生直後より、先遣的支援活動を行っておりましたが、5 月 7 日に開催された 2015 年度第 7 回（通算 36 回）理事会において、災害対策委員会の設立が満場一致で承認されました。

- 名 称： 災害対策委員会
- 設立目的： 平成 28 年熊本地震による被災された災害弱者（障がい者、高齢者等）および防災に関するリハビリテーション工学支援
- 対象分野： 激甚災害支援
- 活動方針： 「被災地への迅速な対応」
- 委員長： 沖川 悦三
- 事務局： 深野 栄子
- 現 委 員： 石濱 裕規、岩崎 満男、金井 謙介、繁成 剛、山形 茂生、吉田 泰三
- 事業期間： 2016 年 4 月 19 日より、2017 年 3 月 31 日
- 事業計画：
- ・ 日本財団への震災ボランティア助成金の申請
 - ・ 平成 28 年熊本地震による被災された災害弱者への具体的対応の検討
 - ・ 平成 28 年熊本地震による協会の初動活動の検討
 - ・ 大規模災害時支援活動基本方針の策定
 - ・ JRAT への加盟検討
 - ・ 障害を持つ人の防災マニュアル（仮称）の作成
 - ・ JASPA・福祉供給協会・愛隣館などの連携の窓口
 - ・ 平成 28 年熊本地震による被災された災害弱者への具体的対応
 - ・ その他、災害対策委員会が独自に必要なと認めたこと
- 当初予算： 10 万円

その後、本事業につき、公財）日本財団の平成 28 年熊本地震 NPO/ボランティア活動支援事業【第 7 回分】に助成申請し、6 月 15 日に助成が決定されました。現在も積極的活動と関連団体との連携構築を推進しており、委員会活動の詳細は、協会誌次号以降にて御報告を予定しております。



図 1 【参考例】強化ダンボールの座卓と座椅子



図 2 配布した御船町の避難所で

November, 2016
Vol. 31
No. 4

Rehabilitation

Engineering

コミュニケーション・ヘルシイITコンテ

特集

重度障害者のコミュニケーション機器
—変遷する技術と支援—

お知らせ

特 集

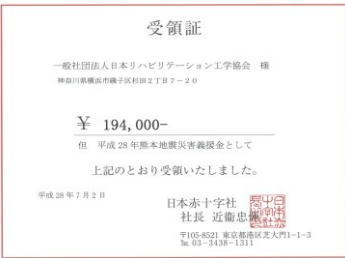
特集にあたって	北岡 剛	107
重度障害者のコミュニケーション機器の支援とは	島中 規	108
意思伝達装置の現状と課題	井村 保	112
意思伝達装置「伝の心」の生い立ちから現在 —利用者とともに育て上げてきた歴史—	岡 高志	116
「話想」誕生の想い —大人から子供まで いつでもどこでも—	高橋 則行	122
視線入力型意思伝達装置 —視線入力装置の有効活用—	伊藤 直弥	126
意思伝達支援ソフト「ハーティラダー」 —無料ソフトからの発信—	吉村 隆樹	130
意思伝達装置と操作スイッチ適合の背景 —適合に必要な技術とは—	日向野 和夫	134
ICT とコミュニケーション支援 —情報支援技術の過去・現在・未来—	田代 洋章	138

報 告

第5回日本リハビリテーション工学協会・全国頸髄損傷者連絡会合同シンポジウム —「生活の中での褥瘡」その向き合い方— に参加してきました	植田 瑞昌	142
プラネット第2回研究大会	東島 弘子	143
ヨコハマ・ヒューマン&テクノランド2016 —子ども用バギー展示報告—	永瀬 夏希	144
CREATe Asia Alliance Meeting 参加報告 Report of CREATe Asia Alliance Meeting	剣持 悟	145
熊本地震現地調査(4/24)報告	赤澤 康史・岩崎 満男・吉田 泰三	146



リハ工学協会災害対策委員会の活動状況報告と今後の予定

事項	2016	概要	備考 (担当)
災害発生	4/14	熊本地震発生	
設置	4/19	設立目的：平成28年熊本地震による被災された災害弱者（障がい者、高齢者等）および防災に関するリハビリテーション工学支援 2017年3月31日迄を設立期間とする。	委員長： 沖川 悦三
初動調査	4/24	(～4月26日迄) 被災直後の初動調査実施（報告あり） 障害者支援施設 愛隣館（熊本県山鹿市）を拠点として現地情報収集 大分県別府市を26日に調査 後に愛隣館の情報提供により益城町の非公式の避難所に介護ベッド用のマットレス提供（協力：(株)プラッツ）	吉田 岩崎 赤澤
報告	5/7	第4回東日本大震災復興支援リハビリテーション工学講習会in福島 初動調査を報告	吉田 岩崎 赤澤
設立承認	5/7	2015年度第7回（通算36回）理事会において、災害対策委員会の設立が満場一致で承認された。	全理事
助成決定	6/7	公財）日本財団 平成28年熊本地震NPO/ボランティア活動支援事業【第7回分】 助成申請 6月15日に助成が決定	事務局
二次調査	6/22	協会としての具体的な支援調査 御船町避難所にて、配布作成した強化ダンボールの座卓(だんて)と 座椅子(だんちえ) 寄贈（協力：(株)アサヒテックコーポレーション） 益城町避難所を訪問し情報交換	繁成 岩崎
義援金	7/2	日本赤十字社に義援金送金 バリアフリー展 復興支援講習会 新潟福祉機器展 合同シンポジウム 高知福祉機器展等にて活動 くまモンの靴べら(Vela)分 ：194個分194,000円) (協力：パシフィックサプライ(株))	沖川ほか
			
二次調査	7/11	益城町・御船町・西原村へニーズ調査 仮設住宅に入居される優先世帯への支援策、ならびに、ボランティアを動員した仮設生活家具や福祉用具の製作ワークショップを検討	岩崎
二次調査	9/6	帝京大学関係者の斡旋により南阿蘇村に先遣隊を派遣した。支援の必要の有無の確認と、具体的な支援方法に関し、行政・仮設住宅居住者の方々より情報収集を実施。1世帯で実際に支援をし、具体的な改善手法について、後日、山形が南阿蘇村に情報提供を行った。 日本ウイール・チェア株式会社職員もアドバイザーとして同行。	沖川 山形 吉田
ワークショップ	9/6	西原の避難所（構造改善センター） 「強化段ボールを用いた仮設住宅用生活家具や福祉用具の製作ワークショップ【第1回】」を開催 地域ボランティアスタッフも参加	繁成 金井 岩崎
ワークショップ	11/23	同上 第2回開催予定	岩崎ほか

報告

熊本地震現地調査（4/24）報告

日本リハビリテーション工学協会
赤澤 康史・岩崎 満男・吉田 泰三

1. はじめに

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会が
大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会
(JRAT) 加盟を検討しているさなか、恐れていた次の
激甚災害が発生した。障害のある被災者のために組
織としてできること、すべきことは何かを探るため現
地調査が重要と考え、まずは個人の集団として実施
した。メモ程度になるが緊急報告する。

日時：2016年4月24(日)9時久留米出発、
同日18時40分頃帰着

訪問場所と対応者：

(1) (社福) 愛隣園 障害者支援施設 愛隣館

(熊本県山鹿市都留2022：図1のA点)

館長 三浦貴子様

(全国身体障害者施設協議会 常任協議員

熊本県身体障害児者施設協議会会長 他)

サービス管理責任者 辻 啓司様

(熊本障がい者スポーツ指導者協議会会長)

(2) 熊本総合医療リハビリテーション学院

(熊本市東区小山2-25-35：図1・図2のB点)

専任講師 笹川友彦様

(日本リハビリテーション工学協会義肢装具
SIGメンバー)



図1 熊本県北部(県町村会ウェブより)



図2 熊本市東区および益城町(Google マップに加工)

(3) 益城町総合体育館（大規模避難所）

（熊本県上益城郡益城町木山236:図2のC点）
 特定の応対者なし
 （障害者対応責任者が不在であった）

2. 熊本調査内容

(1) 愛隣館

三浦氏は自らも熊本市中央区の自宅（マンション10階）で被災されながら、職場である愛隣館でいち早く支援体制を整え、各地へ支援物資を送るだけでなく、西原町の要介護高齢者をグループ（10余名）で受け入れるなど積極的に活動されている。お忙しい中、当初予定した30分をはるかに超え1時間15分ほど対応していただいた。お話の中から、また施設見学によりわかったのは次のようなこと

- ・ 社会福祉の複合的施設であり、広大な敷地に各種施設が建ち、日常的に450名以上の利用者にサービスを提供している
- ・ 法人理事長が「困っている人は受け入れなさい」と指示している
- ・ 基本的な物資は全身協や地域ネットワークを通じて十分確保できている
- ・ 倉庫に余裕がある
- ・ 人的応援も関連施設から比較的多く得ている
- ・ 避難者にとって、野菜など生鮮食品はニーズが高い
- ・ 三浦氏は「熊本地震における支援物資等の状況報告について」を7号（4/28付）まで発行し、厚労省障害福祉課・全社協・全身協・県内関連団体に発信している
- ・ 同報告掲載の通り、愛隣館に物資を集積し県内各地の避難所や一時避難場所となっている施設へ配送している
- ・ 熊本障害フォーラム（KDF：JDF日本障害フォーラムの熊本版）とも連携、弁護士で熊本学園大教授の東俊裕氏らが呼びかけ「被災地障害支援センターくまもと」が立ち上がり（4/20付）、在宅障害者ニーズの拾い出しも始まりそう
- ・ 生活介護事業所である愛隣倶楽部において、急遽レンタルベッド8台を導入、被災障害者および家族の受け入れ準備済み。さらに増える場合にベッド等の供給を受けられればありがたいと三浦

氏は考えている。

なお、神戸市内の障害者支援施設からのいち早い食糧支援や仙台の「ありのまま舎」の助言・励ましへの謝意を表されていた。

帰り際に昼食を勧められ固辞したものの、同園作業所で休業せず作り続けている焼きたてパンや缶飲料を手渡され、（当方吉田からの手土産（紙パック茶およびカロリーメイト）は最初に受け取っていただいていたが、恐縮するとともに、）山鹿のインフラ状態や愛隣館の運営状況が良く、熊本市内まで一時間以内で行け支援拠点として理想的であると感じられた。

(2) 熊本総合医療リハビリテーション学院

（14時合流）

笹川氏もご家族とともに車中泊を余儀なくされる程の被災をしながら、学院の再開に備えている。学院の建物のうち、新館の内部を案内。内壁塗装の剥離、ガラス陳列棚の破損、職員室の東西方向を主とする揺れ方などを実地に説明下さった。一週間でよく片付けられた印象。ただし、旧館の方は天井パネルや階段の落下などもあり建設業者による補修が続いているとのこと。

同僚のK氏（日本義肢装具士協会のJRAT窓口ご担当）については、ご自宅が南阿蘇だが報道されている被害地域とはブロックが異なり家もご家族とも無事、ただし出勤はすぐにできない模様とのことであった。

(3) 総合体育館への移動

笹川氏はそのような中、最も被害が甚大な益城町中心部へ道案内下さった。熊本市東区とは隣接しており移動時間は車で15分程度だが、町役場周辺は渋滞が発生していた。町の役場や社協には炊き出し以外に人は見当たらず、避難者が多数いると思われる総合体育館へ徒歩で移動。車椅子での移動は無謀であるため、岩崎のみ迂回して同目的地近傍へ。徒歩組は途中、文化会館の敷地を通った。遠景では無傷のように見えたが、周囲の土地の変形、法面の崩落にともなう入り口室の損壊などで使用できない状態であった。その南側の民家や生活道路も激しい倒壊状態のまま手つかずの状態であった。

(4) 総合体育館

大規模避難所としてマスコミも多数来所しているところ。避難所内の機能区分がようやく始まっている

様子で、坂茂氏のグループが紙管とシートによる診療スペースを構築している最中であった。障害が顕著な方は見当たらず、どのように過ごされているか全く不明。手すきの薬剤師さんに尋ねるが担当者不在とのこと。

避難所内に売店があり、すぐ近くにコンビニエンスストア（セブンイレブン）がある。コンビニには通常と同程度の商品があった。

3. 大分県の（別府市）調査内容

大規模災害の場合、どうしても被害が大きい方向きがちである。2011年3月11日に発生した東日本大震災では、東北から関東にかけて大きな被害を受けた。しかし、地震被害の場合、誘発地震範囲が、数百キロ単位になることもある。翌日12日午前3時59分に東日本大震災の遠方誘発地震として長野県北部を震源とする震度6強に見舞われた、長野県下水内郡栄村はその典型である。栄村は「忘れられた被災地」とも称されている。

今回、熊本と大分で同時期的に地震が発生したにもかかわらず、かつ、大分県別府市でボランティアや支援物資が少ないと報道されていた理由はどのようなものかを4月26日（火曜日）に実地調査した。結論からいえば、震度に比例しない家屋被害の少なさに起因すると考えられる。

別府市生活環境部長様ならびに別府市社会福祉協議会常務理事様からのヒアリング並びに、両者の同行のもと、自主避難所を見学させていただいた（写真1）。



写真1 別府の避難所状況（段ボールもありました）

結果は別府市では、建物倒壊はなく、またライフラインも一部を除き、被害は軽微であった。買い物も近くのスーパーで済ませることができた。

避難所は、避難指示や避難勧告などではなく、あくまで、「自主避難」であり、炊き出しなどは行われていない。あくまでも、夜間の余震に備えたもので、避難所の日中の人口は少ない。別府市から提供された資料（3時間毎の計測）では、23日19時から26日7時までの避難者数の推移は、毎日13時を最低とし、21時を最高としている。障害者の方々への支援は、基本的に別府太陽の家やリハセンターなどのネットワークによるものが活着しているようであり、物理的な要望は若干の後片付けの依頼はあったが、ほぼないと言える状態である。ただし、余震も多くあり、障害者の精神的な支え（不安解消）が必要であるが、災害ボランティアセンターは開設せず、通常のボランティアセンターで対応しているとのことであった。

4. 発生から2週間後の被害状況

4月14日21:26頃にM6.5・最大震度7を観測する地震が発生した後、16日01:25頃には一連の地震活動で最大の規模となるM7.3・最大震度7の地震が発生した。これらの地震の影響で、揺れの強かった熊本県、大分県などを中心に九州地方の広い範囲で死傷者や家屋の倒壊、火災、土砂災害などの被害が多数確認された。気象庁は、本地震を「平成28年熊本地震」と名付けた。また、今回の地震を「特定非常災害」に指定することを28日に政府は閣議決定し、様々な特別措置が被災者に講じられることになった。「特定非常災害」の指定は、阪神・淡路大震災、新潟県中越地震、東日本大震災に続き4例目となる。

発生から2週間経過した4月28日時点での状況としては、震度1以上の余震数1000回以上。被害状況は以下の通り。死者49名、行方不明者1名。震災関連死者（エコノミークラス症候群など）16名。負傷者は、熊本県1489名、大分県26名、福岡県18名、佐賀県13名、宮崎県8名。被害を受けた家屋12130棟（全壊2102棟、半壊2297棟、一部損壊7731棟）で、今後更に増加する傾向。避難所数492箇所、約36800人以上が避難。

5. 被害状況 (写真 2～9)



写真 2 愛隣館の玄関に掲げられた対策本部看板



写真 6 愛隣倶楽部の内部 (特殊浴室)



写真 3 受け入れ被災者の居住スペース (左手奥)



写真 7 益城町役場駐車場の掲示板



写真 4 生活介護事所「愛隣倶楽部」
(愛隣館より約 150m)



写真 8 益城町文化会館周辺の状況



写真 5 愛隣倶楽部の内部
(レンタルで確保されたベッドと衝立、全 8 組の一部)



写真 9 益城町総合体育館の敷地入口

2016年11月1日

協会員各位

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会
会 長 繁成 剛
同協会副会長・災害対策委員長
沖川 悦三
(公印略)

熊本地震に関わるボランティア活動(第2回ワークショップ開催)について(依頼)

時下、協会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、4月14・16日に発生しました平成28年熊本地震は熊本県内にも大きな被害を与えました。地震後6ヶ月以上を過ぎ、なお復興が急がれるところですが、まだまだ人的な資源および支援が不足している現状です。

そこで、次のような内容のワークショップを当協会で開催いたします。技術支援の経験豊富な皆様のお力をボランティアとして拝借いたしたく依頼申し上げます。

記

- 日 程： ① 2016年11月23日(水) 8:30 受付 9:00 開催～12:00 終了
② 同日 13:00 受付 13:30 開催～16:00 終了
- 主 催： 一般社団法人日本リハビリテーション工学協会災害対策委員会
- 助 成 金： 本事業は、公財)日本財団の平成28年熊本地震 NPO/ ボランティア活動支援事業による助成金にて活動を実施します。
- 会 場： ① 益城町：木山仮設団地内の集会所
〒861-2242 熊本県上益城郡益城町木山 866-1
② 益城町：テクノ仮設団地内の集会所
〒861-2204 熊本県上益城郡益城町小谷 2083-7
- 内 容： 強化段ボールを用いた仮設住宅用生活家具や福祉用具の製作ワークショップの製作補助および準備等の作業
- 依頼人数： 若干名(但し、ボランティア定員になり次第締め切ります。熊本県へアクセスしやすい方を優先させていただきます)希望される方は、下記の岩崎まで電話またはメールにて申し込み願います。
- 交通費・ボランティア保険等：
当協会にて、交通費実費を支給させていただきます(ただし日当は無し)。領収書は、可能な限り発行をお願いします。また、参加者には、ボランティア保険加入していただきます。

<連絡先> 一般社団法人日本リハビリテーション工学協会災害対策委員会

担当：岩崎 満男(携帯. 090-1085-9959)

メールアドレス: iwakimitsuo9959@gmail.com

February, 2017
Vol. 32
No. 1

特集

センサとリハ工学

お知らせ

特 集

特集にあたって	谷口 公友	1
ビッグデータ時代のセンサ活用のプラスとマイナス	大日方 五郎	2
心電、筋電、脳波を計測する超小型無線生体計測システム	深澤 総一	10
ウェアラブル心電・呼吸・加速度センサー	伊藤 嘉春	12
座圧分布測定システム CONFORMat	井上 良	14
モバイル型アイマークレコーダー	中村 祥悟	16
オットーボック社の電子制御膝継手 C-Leg® について	八幡 清彦・仲内 信行	19
ロボティックマットレス「レイオス」の開発 一体圧と体動の可視化	三村 真季	23
センサーを使った現場での応用事例	上野 忠浩	27
補聴器におけるセンサと聴覚障害の情報保障	成沢 良幸・大沼 直紀	31

研究論文

重症心身障害児・者における入浴介助に用いる福祉機器の使用群と不使用群の比較	高橋 恵一	35
---	-------	----

連 載

車椅子の歴史 第四回 箱根式車椅子と北島藤次郎	桂 律也	43
----------------------------------	------	----

報 告

第31回リハビリテーション工学カンファレンス in こうち	下元 佳子	47
日本福祉のまちづくり学会全国大会 in 函館 2016	村井 裕樹	48
第12回義肢装具 SIG 講習会参加報告	増田 美紅	49
第32回日本義肢装具学会学術大会	辻村 和見	50
2016 リオパラリンピックの舞台裏	月城 慶一	51
強化段ボールを用いた仮設住宅用家具の製作ワークショップ【第2回】	岩崎 満男	52

福祉機器コンテスト 2016 結果報告書





日本リハビリテーション工学協会

強化段ボールを用いた 仮設住宅用生活家具の 製作ワークショップ【第3回】

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会は、障害のある人や高齢の方に対して、生活上の困難を「支援技術」と呼ぶ工学技術を活用して少しでも取り除く活動に取り組んでいます。平成28年熊本地震では、多くの方が被災し現在でもなお避難生活を強いられています。そのような中で、被災された方々への工学支援を行うために、以下のワークショップを開催し、必要な強化段ボール製の生活家具を製作します。

(災害対策委員長 沖川悦三)

日 程： ① 2017年3月4日(土) 13:30 受付 14:00 開催～16:00 終了

② 2017年3月5日(日) 9:30 受付 10:00 開催～12:00 終了

主 催： 一般社団法人日本リハビリテーション工学協会災害対策委員会

助 成 金： 本事業は、公財)日本財団の平成28年熊本地震NPO/ボランティア活動支援事業による助成金にて活動を実施します。

会 場： ① 益城町：木山仮設団地内の「A集会所」
〒861-2242 熊本県上益城郡益城町木山 866-1
② 益城町：テクノ仮設団地内の「みんなの家(集会所B2)」
〒861-2204 熊本県上益城郡益城町小谷 2083-7

定 員： ① 30名(先着順) ② 30名(先着順)

参 加 費： 無料

申込方法： 参加自由ですので、当日に受付を済ませてください。定員になり次第受付を終了させていただきます。



図1 強化ダンボールの生活家具例



図2 ワークショップの様子



図3 みんなの家

連絡先
一般社団法人日本リハビリテーション工学協会災害対策委員会 担当：岩崎 満男 (iwasakimitsuo9959@gmail.com)

2017年2月1日

協会員各位

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会
会 長 繁成 剛
同協会副会長・災害対策委員長
沖川 悦三
(公印略)

熊本地震に関わるボランティア活動（第3回ワークショップ開催）について（依頼）

時下、協会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
さて、4月14・16日に発生しました平成28年熊本地震は熊本県内にも大きな被害を与えました。
地震後10ヶ月以上が過ぎ、なお復興が急がれるところですが、まだまだ人的な資源および支援が
不足している現状です。

そこで、次のように益城町内仮設団地2ヶ所にて、下記のワークショップを開催いたしますので、
技術支援の経験豊富な皆様のお力をボランティアとして拝借いたしたく依頼申し上げます。

記

日 程： ① 2017年3月4日（土）13:30 受付 14:00 開催～16:00 終了

② 2017年3月5日（日） 9:30 受付 10:00 開催～12:00 終了

主 催： 一般社団法人日本リハビリテーション工学協会災害対策委員会

助成金： 本事業は、公財）日本財団の平成28年熊本地震NPO/ボランティア活動支援事業
による助成金にて活動を実施します。

会 場： ① 益城町：木山仮設団地内の「A集会所」
〒861-2242 熊本県上益城郡益城町木山 866-1
② 益城町：テクノ仮設団地内の「みんなの家：集会所 B2」
〒861-2204 熊本県上益城郡益城町小谷 2083-7

内 容： 強化段ボールを用いた仮設住宅用生活家具の製作ワークショップの製作補助お
よび準備等の作業

依頼人数： 若干名（但し、ボランティア定員になり次第締め切ります。熊本県へアクセス
しやすい方を優先させていただきます）希望される方は、下記の岩崎までメー
ルにて申し込み願います。

交通費・ボ 当協会にて、交通費実費を支給させていただきます（ただし日当は無し）。

ランティア 領収書は、可能な限り発行をお願いします。また、参加者には、ボランテ

保険等： ィア保険加入していただきます。

<連絡先> 一般社団法人日本リハビリテーション工学協会災害対策委員会

担当：岩崎 満男

メールアドレス： iwakimitsuo9959@gmail.com



日本リハビリテーション工学協会

第5回 東日本大震災復興支援リハビリテーション工学講習会in宮城 開催のご案内

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会は、障害のある人の生活上の困難を「支援技術」と呼ぶ工学技術を活用して少しでも取り除く活動に取り組んでいます。東日本大震災の被災地である宮城県において、我々が専門的に取り組んでいる中から、講習会を開催することにしました。このイベントを通して、少しでも被災地の復興の一助になればと思っています。被災地以外からも多数ご参加下さいますようお願いいたします。

(会長 繁成剛)

日 程： 2017年5月13日(土)～14日(日) (2日間)

主 催： 一般社団法人日本リハビリテーション工学協会

共 催： コミュニケーションSIG、SIG姿勢保持、車いすSIG、特別支援教育SIG、SIG自助具
SIG住まいづくり、移乗機器SIG、義肢装具SIG、乗り物SIG、SIG褥そう防止装置

協 賛： 一般社団法人日本リハビリテーション工学協会賛助会員等各社

会 場： 戦災復興記念館 (4階 第2会議室・研修室・第1会議室)

〒980-0804 宮城県仙台市青葉区大町二丁目12番1号

TEL.022-263-6931 FAX.022-262-5465

定 員： 100名(先着順)

参加費：	青森県、岩手県、宮城県、福島県にお住まいの方	3,000円
	上記以外にお住まいの方	5,000円

昼 食： 各自昼食をご用意ください。なお事務局にてお弁当(お茶付きで1000円)の注文をとりまとめさせていただきますので、ご希望の方は参加申込書にてお申し込みください。

申込締切： 2017年4月10日(月) 定員になり次第受付を終了させていただきます

申込方法： 参加申込書に必要事項をご記入の上、FAXまたは郵送にて下記までお申し込みください。

参加費は事前振込制とさせていただきます。お申込を受けさせていただいた方には、後日、参加費請求書をお送りいたしますので期限までにお振込をお願いいたします。

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会 担当：深野栄子(協会事務局)

〒235-0033 神奈川県横浜市磯子区杉田2-7-20 TEL. 045-353-8364 FAX. 045-353-8365

報告

強化段ボールを用いた仮設住宅用家具の製作ワークショップ【第2回】

日本リハビリテーション工学協会 災害対策委員会 岩崎 満男

1. 報告概要

平成 28 年熊本地震の災害支援活動を日本リハビリテーション工学協会災害対策委員会（以下、災害対策委員会）主催にて、2016 年 11 月 22 日に強化段ボールを使った幼児用椅子の製作ワークショップの活動を御船町の子育て支援センターにて、同 23 日には、学生ボランティアを動員した仮設住宅用生活家具の製作ワークショップの活動を益城町の木山・テクノ仮設団地にて行った。今回の活動は第 2 回目で、公財）日本財団の平成 28 年熊本地震 NPO/ ボランティア活動支援事業による助成金により実施された。和気あいあいの中、親御さん達やボランティアの方々が真剣に段ボール製作を行った。22 日午後の御船町では幼児用椅子を 10 個、23 日午前の木山仮設住宅では椅子・テーブル・棚等を、避難者の方々に 20 個贈呈した。また、23 日午後のテクノ仮設団地では、各種椅子・テーブル・棚・子供用学習机等を、避難者の方々に 10 個贈呈した。

2. ワークショップ内容

1) 期日・参加者数・場所

① 11 月 22 日（火曜日）13:30～15:30（図 1）

参加者 10 名 NPO 法人 子育て談話室 子育て支援センター 熊本県上益城郡御船町御船 1003-2

② 11 月 23 日（火曜日）9:30～12:00（図 2）

参加者 20 名 益城町木山仮設団地北集会所 熊本県上益城郡益城町木山 866-1

③ 11 月 23 日（水曜日）13:30～16:00（図 3）

参加者 10 名 益城町テクノ仮設団地 D 集会所 熊本県上益城郡益城町小谷 2083-7



図 1 御船町子育て支援センターにて



図 2 木山仮設団地にて

株式会社ファースト・ウェルフェア

〒 830-1114 福岡県久留米市北野町高良 1519-2



図3 テクノ仮設団地にて

2) スタッフ：災害対策委員会（繁成、金井、岩崎）、北九州市福祉事業団ひよりの丘（樋口、宮本）、熊本総合医療リハビリテーション学院義肢装具科（笹川講師、学生4名）、熊本学園大学（吉津准教授、学生7名）

3) 製作したもの：幼児用椅子15個、整理棚5個、ダンテ（段ボールテーブル）12個、ダンチェ（段ボール椅子）5個、多目的ケース2個、子供用学習机1個、合計40個を、被災者の方々へ提供した。

3. 参加者アンケート結果（割合）

1) 木山仮設団地 13/20名（回収率65%）男2名・

女11名、30代・40代各1名、60代11名

- ・内容について 良い12（92%）、わからない1（8%）
- ・段ボール家具について 使ってみたい12（92%）、必要ない1（8%）
- ・スタッフについて 対応良い10（77%）、まあまあ2（15%）、わからない1（8%）
- ・次回の参加について 参加したい13（100%）
- ・ご意見 ・また来てください ・2つくらいもらいたい ・ありがとうございましたテーブル助かります！ ・下駄箱がほしい！ ・作るの大好きです ・十分な生活が出き、ありがたく思っています、感謝します ・組立式ということでしたので、どうして作られるのだろうか？と見ていました所、皆さんの対応がとても良く、でも本当に大変だなあと思いました、大事に長く使わせていただきます ・参加して、いろんな物を作りたい

2) テクノ仮設団地 10/10名（回収率100%）男1名・女9名、10代以下5名、60代5名

- ・内容について 良い10（100%）
- ・段ボール家具について 使ってみたい12（92%）、どちらでもない1（8%）
- ・スタッフについて 対応良い8（80%）、わからない1（10%）、良くない1（10%）
- ・次回の参加について 参加したい8（80%）、したくない1（10%）、どちらでもない1（10%）
- ・ご意見 なし

4. 次回の予定と課題

今回は2017年3月4・5日を予定。課題として、

- 1) 製作時間短縮のために、ニーズのある製品はブレカットして材料を搬入する。
- 2) 高さや大きさなどの改造ニーズにも対応できるように、製作時の注文票を発行する等の改善を行う。



災害時の環境整備 日常生活を取り戻すための技術

お知らせ

特 集

特集にあたって	野口 祐子	57
熊本地震から学ぶ ー災害被災から日常生活を取り戻すためにー	平野 みどり	58
避難所の景色を変える ー熊本地震の報告ー	水谷 嘉浩	62
障がいのある人にとっての仮設住宅・みなし仮設住宅の課題	阪東 美智子	66
重度障害と被災 ー地域防災力の向上に向けてー	櫻井 理	72
障害者の災害対策チェックキット ー備えを確認するための仮想演習ー	硯川 潤	76
避難所・応急仮設住宅での障害者・高齢者の生活環境支援		
ー東日本大震災における宮城県石巻地域での取り組みー	武田 輝也	80
リハビリテーション専門職による高齢者・障害者に対する災害支援		
ー熊本地震における JRAT の取り組みー	三宮 克彦	85

報 告

第6回キッズ☆バリアフリーフェスティバル	渡邊 英孝	87
PPC2016 第18回西日本国際福祉機器展に参加して	辻 奈美	88
第1回バラクリテリウム in 成田(前テレウスカップ)	木戸 司	89
平成28年度 福祉用具講習会『第4回南多摩福祉機器展』	鈴木 奨	90
第11回視覚障害者向け総合イベント サイトワールド2016	児玉 真一	92
介助犬のひろば in 北河内2016 開催報告	剣持 悟	93
第37回障害者歩くスキーの集い ー石の上にも3年ー	澤田 蓮・澤田 知子	94
強化段ボールを用いた仮設住宅用家具の製作ワークショップ【第3回】	岩崎 満男	95





日本リハビリテーション工学協会

第5回 東日本大震災復興支援リハビリテーション工学講習会in宮城 開催のご案内

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会は、障害のある人の生活上の困難を「支援技術」と呼ぶ工学技術を活用して少しでも取り除く活動に取り組んでいます。東日本大震災の被災地である宮城県において、我々が専門的に取り組んでいる中から、9つの分野で講習会を開催することにしました。このイベントを通して、少しでも被災地の復興の一助になればと思っています。被災地以外からも多数ご参加下さいますようお願いいたします。

(会長 繁成剛)

- 日 程： 2017年5月13日(土)～14日(日) (2日間)
- 主 催： 一般社団法人日本リハビリテーション工学協会
- 共 催： コミュニケーションSIG、SIG姿勢保持、車いすSIG、特別支援教育SIG、自助具SIG
SIG住まいづくり、移乗機器SIG、乗り物SIG、SIG褥そう防止装置
- 協 賛： 一般社団法人日本リハビリテーション工学協会賛助会員等各社
- 会 場： 戦災復興記念館 (4階 第2会議室・研修室・第1会議室)
〒980-0804 宮城県仙台市青葉区大町二丁目12番1号
TEL.022-263-6931 FAX.022-262-5465
- 定 員： 100名(先着順)
- 参 加 費：

青森県、岩手県、宮城県、福島県にお住まいの方	3,000円
上記以外にお住まいの方	5,000円
学生	2,000円

昼 食： 各自昼食をご用意ください。なお事務局にてお弁当(お茶付きで1000円)の注文をとりまとめさせていただきますので、ご希望の方は参加申込書にてお申し込みください。

申込締切： 2017年5月7日(日) 定員になり次第受付を終了させていただきます

申込方法： 参加申込書に必要事項をご記入の上、FAXまたは郵送にて下記までお申し込みください。

参加費は事前振込制とさせていただきます。お申込を受けさせていただいた方には、後日、参加費請求書をお送りいたしますので期限までにお振込をお願いいたします。

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会 担当：深野栄子(協会事務局)

〒235-0033 神奈川県横浜市磯子区杉田2-7-20 TEL. 045-353-8364 FAX. 045-353-8365

第5回東日本大震災復興支援リハビリテーション工学講習会 in 宮城プログラム

1日目 5月13日(土)		2日目 5月14日(日)	
9:30~	受付: 第2会議室(60名)	研修室(64名) ※固定席(階段教室)	09:00 ~ 10:20
10:00 ~ 10:10	開講式(予定) 会長挨拶:繁成剛(東洋大学)、実行委員長挨拶:沖川悦三(協会理事・神奈川県総合リハセンター)		⑨移乗機器 SIG 「みんなが「使ってくれる!」移乗機器の導入のコツ」 講師:松本多正((株)楽々サービス)、大場薫(宮城県介護研修センター)
10:10 ~ 11:30	①特別企画 司会:繁成 剛(会長)、沖川悦三(災害対策委員長) 1:「宮城県名取市箱塚桜団地仮設住宅と共に」 講師:市川一子(箱塚桜団地 ゆめ工房) 2:「東日本大震災・熊本地震を通してリハビリテーション工学ができたこと、できなかったこと」 発言者:岩崎満男(理事)、吉田泰三(理事)		10:30 ~ 11:50 ⑩自助具 SIG 「身近な福祉用具、自助具の選び方、使い方」 講師:岡田英志(ヒューマン) ⑪移乗機器 SIG 「みんなが「使ってくれる!」移乗機器の教え方・伝え方」 講師:松本多正((株)楽々サービス)、大場薫(宮城県介護研修センター)
11:30~12:30	お昼休み		11:50~12:50 お昼休み
12:30 ~ 13:50	③SIG 姿勢保持 「標準型車椅子での座位姿勢を改善する具体的な方法と技術」 講師:繁成 剛(東洋大学)、鈴木聖貴(川村義肢)	④SIG 住まいづくり 「高齢や身体障害のため、起立や歩行ができなくても、福祉用具を活用し住環境改善で楽しい生活を!」 講師:松尾 清美(佐賀大学)	12:50 ~ 14:10 ⑬車いす SIG 「車椅子用クッションの選び方・使い方」 講師:江原喜人(総合せき損センター)
14:00 ~ 15:20	⑤SIG 姿勢保持 「身近な材料を使った姿勢保持具の製作実習」 講師:本郷俊哉(木村義肢)、鈴木聖貴(川村義肢)	⑥乗り物 SIG 「重度障害と被災～地域防災力の向上に向けて～」 講師:櫻井 理(NPO法人 Li FESET)	14:20 ~ 15:40 ⑭車いす SIG 「地域包括ケアシステム」における車椅子ユーザーの生活」 講師:桂 律也(クラーク病院)
15:30 ~ 16:50		⑧特別支援教育 SIG 「発達支援をかんがえよう!」 講師:北山 淳(大和大学)	⑯SIG 褥そう防止装置 「新しい褥そう概念とリハビリテーション工学」 講師:河合俊宏(埼玉県リハセンター)

※プログラム内容の詳細は協会HPをご確認ください。

※研修室は飲食不可のため、4階第5会議室(15名)または5階和室(25名)をご利用ください。

プログラム概要 ※プログラム内容は、都合により変更になる場合がございますのでご了承ください。

<p>①特別企画 司会:繁成 剛(会長)、沖川悦三(災害対策委員長)</p> <p>1:「宮城県名取市箱塚桜団地仮設住宅と共に」 講師:市川一子(箱塚桜団地 ゆめ工房)</p> <p>東日本大震災で、閑上地区は5,600人の住民のうち死者行方不明者が約800名という大きな被害に遭い町はなくなりました。すべてをなくし仮設住宅に暮らす人たちが、少しでも明るい気持ちで取り組める手仕事を。そんな想いから閑上の方が入居している仮設住宅「名取市箱塚桜団地」に2012年3月、アクリルたわしを製作販売する「ゆめ工房」を立ち上げました。「ゆめ工房」は、平均年齢75歳 最高年齢88歳になる方々とボランティアメンバーで活動しています。当日は「ゆめ工房」の歩みを通じて、箱塚桜団地の過去、現在、未来についてご講演いただき、熊本地震の活動報告などを通して日本リハビリテーション工学協会としても災害支援のあり方を考えてみたいと思います。</p> <p>2:「東日本大震災・熊本地震を通してリハビリテーション工学ができたこと、できなかったこと」 発言者:岩崎満男(理事)、吉田泰三(理事)</p>

事務局の番号が変更になっておりますのでお間違のないようお願いいたします。
 ※ 参加費等請求書がお手元に届かない場合受付が受理されておられませんのでご注意ください。



FAX 045-353-8365 協会事務局あて

「東日本大震災復興支援リハビリテーション工学講習会 in 宮城」参加申込書

フリガナ				年 齢			男 ・ 女	車椅子	<input type="checkbox"/> 使用		
氏 名				年 齢			男 ・ 女	車椅子	<input type="checkbox"/> 使用		
職 種	該当する職種を○で囲んでください 理学療法士 作業療法士 医師 看護師 保健師 エンジニア 義肢装具士 建築士 製造・営業 介護支援専門員 介護職 介護福祉士 相談員 社会福祉士 支援員 教員 その他 ()										
経験年数	上記職種について			年 目							
勤務先名 (学校名)											
希望連絡先	いずれかに○をつけてください 勤務先 ・ 自宅										
	住 所	〒									
	TEL				FAX						
	E-mail										
居住地	都・道・府・県										
該当する参加枠と参加費を○で囲んでください											
● 青森県、岩手県、宮城県、福島県にお住まいの方								3,000 円			
● その他（上記以外にお住まいの方）								5,000 円			
● 学生の方								2,000 円			
昼食を注文される方は希望日に○をつけてください 各自昼食をご用意ください。なお事務局にてお弁当（お茶付きで 1000 円）の注文をとりまとめさせていただきますので、ご希望の方は参加申込書にてお申し込みください。※お持込されたお弁当殻は各自お持ち帰りいただきますようお願いいたします。								13 日 1,000 円			
								14 日 1,000 円			
参加費と昼食代の合計額をご記入ください。								円			
①の特別企画は共通講義ですが、それ以外は、各時間枠毎に2コマのうち1コマお選びいただき○をご記入ください ※コマごとに先着順とさせていただきますので予めご了承ください											
1日目 5月13日(土)					2日目 5月14日(日)						
		4階 第2会議室		4階 研修室				4階 第2会議室		4階 第1会議室	
10:10~11:30		①				09:00~10:20		⑨		⑩	
12:30~13:50		③		④		10:30~11:50		⑪		⑫	
14:00~15:20		⑤		⑥		12:50~14:10		⑬		⑭	
15:30~16:50				⑧		14:20~15:40		⑮		⑯	
この講習会を何で知りましたか？				協会ホームページ ・ DM (ダイレクトメール) ・ その他 ()							
通信欄											

申込み締切り 2017年5月7日(日) 定員になり次第受付を終了させていただきます。

報 告

強化段ボールを用いた仮設住宅用家具の製作ワークショップ【第3回】

日本リハビリテーション工学協会 災害対策委員会 岩崎 満男

1. はじめに

平成28年熊本地震の災害支援活動を日本リハビリテーション工学協会災害対策委員会（以下、災害対策委員会）主催として以下に実施した。平成29年3月4日午後、益城町の木山仮設団地内の集会所、そして、5日午前には同町のテクノ仮設団地内の集会所にて学生ボランティアを動員した仮設住宅用生活家具の製作ワークショップの活動を行った。今回の活動は第3回目、(公財)日本財団の平成28年熊本地震NPO/ボランティア活動支援事業による助成金により実施した。参加者とボランティアスタッフが協同して強化ダンボールで製作を行った結果、木山仮設団地では3段整理棚30個、学習机10個、テクノ仮設住宅では3段整理棚30個、学習机10個、多目的BOX3個の合計83個を参加者の方々に贈呈した。

2. ワークショップ内容

1) 期日・参加者数・場所

- ①平成29年3月4日(土曜日) 13:30～16:30
参加者30名。場所：益城町木山仮設団地A集会所(熊本県上益城郡益城町木山866-1)
- ②平成29年3月5日(日曜日) 9:30～12:00
参加者37名。場所：益城町テクノ仮設団地みんなの家集会所B2(熊本県上益城郡益城町小谷2083-7)

2) スタッフ(18名)

災害対策委員会(繁成、金井、山形、岩崎)、北九州市福祉事業団ひよりの丘(樋口、宮本)、北九州市立総合療育センター(中村)、北九州保育福祉専門学校(田島、他1名)、モスト技研(森)、熊本総合医療リハビリテーション学院義肢装具科(笹川専任講師、学生5名)、熊本学園大学(吉津准教授、

学生1名)

- 3) 用意したもの：プレカット強化段ボール(整理棚60個、学習机20個)(図1)

強化段ボール定板(1.3×1.25m)5枚、カッター、定規類



図1 製作した3段整理棚と学習机

3. 参加者アンケート結果

- ①木山仮設団地 21/30名(回収率70%)

表1 参加者内訳

男性3名	女性18名
20代以下2名	20代以下/30代各2名
30代1名	40代1名、60代13名

- ・内容について：良い19(90%)、まあまあ1(5%)、わからない1(5%)
- ・段ボール家具について：使ってみよう20(95%)、わからない1(5%)
- ・スタッフについて：対応良い19(90%)、まあまあ2(10%)
- ・次回の参加について：参加したい19(90%)、どちらでもない1(5%)、わからない1(5%)
- ・意見：部屋に物を置く棚が欲しいです。有難いです、感謝です。くつ箱。テレビ台。何かあると思うけどすぐには思いつかない。下駄箱等、台所の棚。まな板。ミニテーブルがほしい。電子レンジがない。座椅子がほしい。

株式会社ファースト・ウェルフェア

〒830-1114 福岡県久留米市北野町高良1519-2

②テクノ仮設団地 37/37名 (回収率 100%)

表2 参加者内訳

男性 8名	女性 29名
20代以下 3名	30代 2名
40/50代各 1名	40/50代各 1名
60代以上 3名	60代以上 25名

- ・内容について：良い 35 (95%)、まあまあ 2 (5%)
- ・段ボール家具について：使ってみたい 37 (100%)
- ・スタッフについて：対応良い 37 (100%)
- ・次回の参加について：参加したい 37 (100%)
- ・意見 (同意見数)：ペン立て (4)。収納・棚類。椅子が欲しい (4)。下駄箱。机が欲しかった。洋間の床音が酷い。家から何も持ってきてないので大いに助かります。皆さんニコニコされ、教えて頂きありがとうございました。3段棚と机を作成しました、とても助かります、仮設では収納不足なのでとても良いです。狭い部屋なので、色々工夫して整理したいので、またこんな機会を利用したいです。

4. まとめ

第1回から第3回までの学生ボランティアを動員した仮設住宅用家具の製作ワークショップ活動を行った。作成した強化段ボールの生活用家具は合計144個、および参加者合計117名以上であった。詳細については、以下の通り。

- ・第1回 (平成 28年 9月 6日) 西原村：避難所 構



図2 第1回ワークショップの新聞記事

造改善センター (図2)

参加者：約 10名 整理棚 11個、ダンテ (段ボールテーブル) 7個、ダンチェ (段ボール椅子) 3個、合計 21個

- ・第2回 (平成 28年 11月 22・23日) 御船町の子育て支援センター・益城町木山仮設団地・益城町テクノ仮設団地

参加者：約 40名 幼児用椅子 15個 (図3)、整理棚 5個、ダンテ (段ボールテーブル) 12個、ダンチェ (段ボール椅子) 5個、多目的ケース 2個、子供用学習机 1個、合計 40個

- ・第3回 (平成 29年 3月 4・5日) 益城町木山仮設団地・益城町テクノ仮設団地 (図4)

参加者：約 67名 整理棚 60個、子供用学習机 20個、多目的BOX 3個、合計 83個



図3 幼児用椅子



図4 学習机を大事そうに持ち帰る親子



図5 第3回ワークショップのスタッフ